百世不磨（ひゃくせいふま）

其ノ壱

社会に必要とされる人物の育成をめざし、教育に情熱を注いだ創立者 平生釟三郎の教え。
その数々を、永遠に消えることなく、存在し続けるさまを表す
「百世不磨」という標題にたとえ紹介いたします。

凡（すべ）て人は皆天才である。

唯（ただ）其の程度に金銀銅鉄と云う風な差があるのみである。
それを皆金に仕上げようとするのはギリシャの錬金術者の様なもので、
それは不可能事だが、金銀銅鉄それぞれに其の本務があるのだから、
それを発揮せしめるように指導しなければならぬ。

――――― 神戸市教育総会での講演より

平生釟三郎　甲南学園創立者　1866〈慶応2〉年～1945〈昭和20〉年

実業家として東京海上保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献し、川崎造船所の再建にも携わる。甲南病院の設立や、灘購買組合（現：コープこうべ）の結成に尽力するなど社会事業にも情熱を傾けた。また政界では、文部大臣として義務教育の年限延長や官学と私学の差別撤廃などを提唱した。さらに教育事業家・教育者であることに天職を見いだしていた平生は、甲南幼稚園および甲南小学校の設立に参画し、甲南中学校さらに旧制七年制甲南高等学校を創立した。

2019年4月、甲南学園は創立100周年を迎えます。

16名の志が、平生釟三郎の手元から羽ばたいた。
天賦（てんぷ）の個性を呼び出すことこそ教育の本質。

1926（大正15）年、当時、平生釟三郎は実業家生活の現役を退き、もっぱら学生の養成に力を尽くしていました。「凡（すべ）て人は皆天才である」という言葉は、そのころ、高等教育を受けた人の不祥事が頻発したことを憂いて、平生が述べたものです。さらに、人を「金銀銅鉄」にたとえて言葉を次の通り続けています。

「画一主義の教育では、各々の個性を失い同じような人間にしてしまう。そうではなく、人間天賦（てんぷ）の個性を呼び出して、それを発育させることこそが、教育本来の役割である」。

当時の画一主義、詰め込み主義の学校教育に対し、人が本来持っている知識や個性を引き出し、自分で考える人に育てていくべきであるという平生の教育観が如実に表れています。

1924（大正13）年には、甲南学園の創始とされる甲南中学校から第一回卒業生を16名輩出。2年後には甲南高等学校から43名が卒業し、全員が官立大学に合格しました。彼らはいずれも、自らの「金銀銅鉄」を磨き上げ、学園から羽ばたいていきました。

そして、90年後の現在、平生のこの教育観は「個性を力に」という言葉によって、甲南学園に継承されています。

甲南中学校第一回卒業式。平生教育を宿した16名が卒業した。1924（大正13）年

甲南新世紀教育への序章 ―「世界に通用する才幹」の育成をめざして―

現在、甲南学園は、甲南教育の伝統のもと、「世界に通用し、個性を力にできる才幹」を育て上げるため、甲南新世紀に向けた教育を展開しています。

甲南大学においては、「圧倒的な教育力」を確立するために、新しい教育機能を発揮する「KONAN INFINITY COMMONS（甲南インフィニティーコモンズ）」などの建設計画を柱に、すべての授業において最適少人数化を徹底し、そこから引き出され生まれる、自発性や能動性、対話力を身につけ、個性を確立した学生の育成をめざします。さらに、どの学部・学科においても受けることができる融合型グローバル教育の推進など、ミディアムサイズの総合大学という特長を最大限に生かし、格段の教育力の向上を実現します。

また、甲南高等学校・中学校では、100周年を迎える2019年に、「フロントランナー」「アドバンスト」の2コースが完成年度となることから、グローバル教育・サイエンス教育・ICT教育の推進をキーワードに教育環境の充実を図ります。

学園創立100周年事業の一環として建設中の「KONAN INFINITY COMMONS」

甲南学園　甲南大学　甲南高等学校　甲南中学校

広報部：〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1 TEL.078-435-2314